

(令和 6 年 10 月 31 日 改訂)

(令和 4 年 8 月 31 日 改訂)

(令和 2 年 10 月 1 日 改訂)

(令和元年 5 月 29 日 改訂)

平成 27 年 9 月 16 日

気象庁

「警報級の可能性（明後日以降）」「早期注意情報（明々後日以降）」XML の解説

○「早期注意情報（明後日まで）」運用開始に伴う、本情報の運用変更について

令和 8 年度の「早期注意情報（明後日まで）」電文の運用開始により、本情報については情報名称を「早期注意情報（警報級の可能性）（明々後日以降）」に変更する。これにより、Head 部の標題（Title）も「〇〇県早期注意情報（明々後日以降）」に変更するが、その他については従前どおりの運用とする。このため、新しい「早期注意情報（明後日まで）」電文を利用する場合、本情報の明後日の予報部分については利用せず、明々後日以降の部分を利用すること。一方、従前の経過措置電文「警報級の可能性（明日まで）」を継続利用する場合は、本情報の明後日部分をこれまでどおり利用すること。

1 全体構成

Report

- └ Control 管理部
- └ Head ヘッダ部
- └ Body 内容部

2 各部の構成と内容

(1) 管理部

① 管理部（Control）の構成と内容

タグ	内容	解説
Control		
└Title	情報名称	電文の種別を示すための情報名称を示す。“警報級の可能性（明後日以降）”で固定。
└DateTime	発表時刻	発表時刻。未来時刻にはならない。 “2008-06-26T01:51:00Z”のように協定世界時で記述する。
└Status	運用種別	本情報の位置づけ。“通常”“訓練”“試験”のいずれかを記載。“訓練”“試験”は正規の情報として利用してはならないことを示す。
└EditorialOffice	編集官署名	実際に発表作業を行った「編集官署名」を示す。“気象庁本庁”“大阪管区气象台”のように記述する。
└PublishingOffice	発表官署名	本情報を業務的に発表した「発表官署名」を示す。“気象庁”“大阪管区气象台”のように記述する。

(2) ヘッダ部

① ヘッダ部（Head）の構成と内容

タグ	内容	解説
Head		
└Title	標題	情報を示す標題。具体的な内容が判別できる名称であり、可視化を目的として利用する。“〇〇早期注意情報（明々後日以降）”（〇〇は府県予報区名）と記述する。（運用の変更日までは“〇〇警報級の可能性（明後日以降）”を記述）
└ReportDateTime	発表時刻	本情報の公式な発表時刻を示す。“2008-06-26T11:00:00+09:00”のように日本標準時で記述する。
└TargetDateTime	基点時刻	本情報の対象となる時刻・時間帯の基点時刻を示す。“2008-06-28T00:00:00+09:00”のように日本標準時で記述する。
└TargetDuration	基点時刻からの取りうる時間	情報の対象が時間幅を持つ場合、TargetDateTime を基点とした時間の幅を示す。“P4D”で、「基点時刻」から4日先までの予報であることを示す。
└EventID	識別情報	警報級の可能性（明後日以降）では要素内に何も記述しない。
└InfoType	情報形態	本情報の形態を示す。“発表”“訂正”“遅延”のいずれかを記述する。
└Serial	情報番号	警報級の可能性（明後日以降）では要素内に何も記述しない。
└InfoKind	スキーマの運用種別情報	同スキーマ上における情報分類に応じた運用を示す種別情報である。“警報級の可能性（明後日以降）”と記述する。
└InfoKindVersion	スキーマの運用種別情報のバージョン	スキーマの運用種別情報におけるバージョン番号を示す。本解説のバージョン番号は“1.2_0”。
└Headline	見出し要素	防災気象情報事項となる見出し要素を示す。警報級の可能性（明後日以降）では何も記述しない。
└└Text	見出し文	警報級の可能性（明後日以降）では要素内に何も記述しない。

(3) 内容部

① 内容部（Body）の構成と内容

タグ	内容	解説
Body		
└ MeteorologicalInfos	予報の項目	警報級の気象現象が発生する可能性を記述する。
└ └ TimeSeriesInfo	時系列情報	MeteorologicalInfos の予報を時系列情報として記述する。

②内容部の個別要素の詳細

※ 1 「警報級の可能性の予想」の詳細

タグ	内容	解説
TimeSeriesInfo	時系列情報	
└ TimeDefines	時系列の時刻定義セット	予報の対象期間を示すとともに、対応する要素の timeId を記述する。
└ TimeDefine	個々の時刻定義	同一 TimeSeriesInfo 内にある要素の ID(refID)に対応する ID(timeId)を記述する。
└ DateTime	基点時刻	予報対象日について記述する。予報対象日の開始時刻を示す。“2008-06-28T00:00:00+09:00”のように日本標準時で記述する。
└ Duration	対象期間	予報の対象期間を示す。値「P1D」で、1日を対象とした予報であることを示す。
└ Item		警報級の可能性の予報と、予報区を記述する。府県予報区に含まれる発表予報区の数だけ繰り返す。 ※ 1－1「警報級の可能性」の詳細を参照。

※ 1－1 「警報級の可能性」の詳細

タグ	内容	解説
Item	予報の内容	
└ Kind	個々の予報の内容	予報を記述する。
└ Property	予報要素	予報要素を記述する。
└ Type	気象要素名	気象要素名を記述する。Type の値は“雨の警報級の可能性”。 雨の警報級の可能性は、大雨の警報級の可能性と土砂災害の警報級の可能性を併せたものとなる。
└ PossibilityRankOfWarningPart	警報級の可能性	「雨の警報級の可能性」の階級値（※ 1－2 参照）を記述する。 ※ 1－1－1「雨の警報級の可能性」の詳細を参照。属性 refID は、予報対象日の参照番号を記述する。TimeDefines で定義した timeId に対応する。
└ Kind	個々の予報の内容	予報を記述する。
└ Property	予報要素	予報要素を記述する。
└ Type	気象要素名	気象要素名を記述する。Type の値は“雪の警報級の可能性”。

└ PossibilityRankOfWarningPart	警報級の可能性	「雪の警報級の可能性」の階級値（※１－２参照）を記述する。 ※１－１－２「雪の警報級の可能性」の詳細を参照。属性 refID は、予報対象日の参照番号を記述する。TimeDefines で定義した timeId に対応する。
└ Kind	個々の予報の内容	予報を記述する。
└ Property	予報要素	予報要素を記述する。
└ Type	気象要素名	気象要素名を記述する。Type の値は“風（風雪）の警報級の可能性”。
└ PossibilityRankOfWarningPart	警報級の可能性	「風（風雪）の警報級の可能性」の階級値（※１－２参照）を記述する。 ※１－１－３「風（風雪）の警報級の可能性」の詳細を参照。属性 refID は、予報対象日の参照番号を記述する。TimeDefines で定義した timeId に対応する。
└ Kind	個々の予報の内容	予報を記述する。
└ Property	予報要素	予報要素を記述する。
└ Type	気象要素名	気象要素名を記述する。Type の値は“波の警報級の可能性”。
└ PossibilityRankOfWarningPart	警報級の可能性	「波の警報級の可能性」の階級値（※１－２参照）を記述する。予報対象地域で波浪警報等の運用を行っていない場合は、Kind 以下を省略する。 ※１－１－４「波の警報級の可能性」の詳細を参照。属性 refID は、予報対象日の参照番号を記述する。TimeDefines で定義した timeId に対応する。
└ Kind	個々の予報の内容	予報を記述する。
└ Property	予報要素	予報要素を記述する。
└ Type	気象要素名	気象要素名を記述する。Type の値は“潮位の警報級の可能性”。
└ PossibilityRankOfWarningPart	警報級の可能性	「潮位の警報級の可能性」の階級値（※１－２参照）を記述する。予報対象地域で高潮警報等の運用を行っていない場合は、Kind 以下を省略する。 ※１－１－５「潮位の警報級の可能性」の詳細を参照。属性 refID は、予報対象日の参照番号を記述する。TimeDefines で定義した timeId に対応する。
└ Area	対象地域	予報対象地域を記述する。
└ Name	対象地域の名称	予報対象地域（予報区）の名称を記述する。
└ Code	対象地域のコード	予報対象地域（予報区）のコードを記述する。

※ 1－1－1 「雨の警報級の可能性」の詳細

例	解説
<pre> <PossibilityRankOfWarningPart> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="1" type="雨の警報級の可能性">中</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="2" type="雨の警報級の可能性" condition="値なし" /> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="3" type="雨の警報級の可能性">高</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="4" type="雨の警報級の可能性">中</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> </PossibilityRankOfWarningPart> </pre>	<p>type には“雨の警報級の可能性”と記載する。</p> <p>警報級の可能性（※ 1－2）は、「高」、「中」又は「なし」の文字列で記載する。それ以外の場合は空タグとし、condition に“値なし”と記載する。</p>

※ 1－1－2 「雪の警報級の可能性」の詳細

例	解説
<pre> <PossibilityRankOfWarningPart> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="1" type="雪の警報級の可能性">なし</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="2" type="雪の警報級の可能性">なし</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="3" type="雪の警報級の可能性">なし</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="4" type="雪の警報級の可能性">なし</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> </PossibilityRankOfWarningPart> </pre>	<p>type には“雪の警報級の可能性”と記載する。</p> <p>警報級の可能性（※ 1－2）は、「高」、「中」又は「なし」の文字列で記載する。それ以外の場合は空タグとし、condition に“値なし”と記載する。</p>

※ 1－1－3 「風（風雪）の警報級の可能性」の詳細

例	解説
<pre> <PossibilityRankOfWarningPart> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="1" type="風（風雪）の警報級の可能性" condition="値なし" /> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="2" type="風（風雪）の警報級の可能性">中 </jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> </pre>	<p>type には“風（風雪）の警報級の可能性”と記載する。</p>

<pre> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="3" type="風（風雪）の警報級の可能性">高 </jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="4" type="風（風雪）の警報級の可能性">中 </jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> </PossibilityRankOfWarningPart> </pre>	<p>警報級の可能性（※1－2）は、「高」、「中」又は「なし」の文字列で記載する。それ以外の場合は空タグとし、condition に“値なし”と記載する。</p>
--	---

※1－1－4 「波の警報級の可能性」の詳細

例	解説
<pre> <PossibilityRankOfWarningPart> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="1" type="波の警報級の可能性" condition="値なし" /> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="2" type="波の警報級の可能性">中</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="3" type="波の警報級の可能性">高</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="4" type="波の警報級の可能性">中</jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> </PossibilityRankOfWarningPart> </pre>	<p>type には“波の警報級の可能性”と記載する。</p> <p>警報級の可能性（※1－2）は、「高」、「中」又は「なし」の文字列で記載する。それ以外の場合は空タグとし、condition に“値なし”と記載する。</p>

※1－1－5 「潮位の警報級の可能性」の詳細

例	解説
<pre> <PossibilityRankOfWarningPart> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="1" type="潮位の警報級の可能性" condition="値なし" /> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="2" type="潮位の警報級の可能性">中 </jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="3" type="潮位の警報級の可能性">中 </jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> <jmx_eb:PossibilityRankOfWarning refID="4" type="潮位の警報級の可能性">中 </jmx_eb:PossibilityRankOfWarning> </PossibilityRankOfWarningPart> </pre>	<p>type には“潮位の警報級の可能性”と記載する。</p> <p>警報級の可能性（※1－2）は、「高」、「中」又は「なし」の文字列で記載する。それ以外の場合は空タグとし、condition に“値なし”と記載する。</p>

	場合は空タグとし、condition に“値なし”と記載する。
--	---------------------------------

※ 1－2 「警報級の可能性」の階級値

階級値*注	解説
高	警報級の現象が発生する可能性が高いことを示す。
中	警報級の現象が発生する可能性があることを示す。
なし	季節的に現象が発生しないことを示す。

(参考)

- ・ 警報級の可能性の名称は「早期注意情報（警報級の可能性）」に変更した。
- ・ 大雨又は高潮に関して、[高]又は[中]が予想されている場合、災害への心構えを高める必要があることを示す警戒レベル1である。
- ・ 気象庁ホームページにおいては、以下のとおり解説を行う。

早期注意情報 （警報級の可能性）*	災害への心構えを高める必要があることを示す警戒レベル1 です。 <u>最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構え を高めてください。</u>	警戒レベル1
----------------------	---	--------

* 大雨又は高潮に関して、[高]又は[中]が予想されている場合。